

# 城の作事 石 落 し ガ イ ド

石落としとは、



天守や櫓、門や塀などに設けられ、下に迫り来る敵兵を監視し、攻撃・撃退する施設を言います。天守や櫓の床や塀の一部を土台から張り出し、その床面に開口部を設けています。柱間に石落としを設置する機会が多いため、横幅は一間が一般的です。内部の床面に設けられて開口部は、木製の蓋によって普段は閉じられています。瞬時に開くようにしてあります。

## 石落としの役目

本来石落としは、狭間（さま・・銃眼）の一種で、ここから下方に向けて鉄砲を撃つ施設でした。しかし江戸軍学によって、石落としは石垣を上って来る敵兵に対して、ここから石を落とすとか、糞尿や汚水、熱湯を浴びせかけるためのものとされ、それが巷（ちまた）に広がってしまったのです。

天守や櫓では、石落としを隅部に設置することが多いのです。これは石落としは開口部が大きく、狭間では対応できない左右数mという広い範囲を攻撃することが可能であり、隅部に設置することで有効射程視野を確保しようとしたものです。松本城大天守には、隅部のほかに中央に二間の石落としを設置して、より有効射程視野の確保を考えています。



## 石落としの分類

次の三種に分けられます。

- (1) 袴腰型（はかまごし）
- (2) 戸袋型（とぶくろ）
- (3) 出窓型（でまど） です。

(1) 袴腰型・・・姫路城の場合



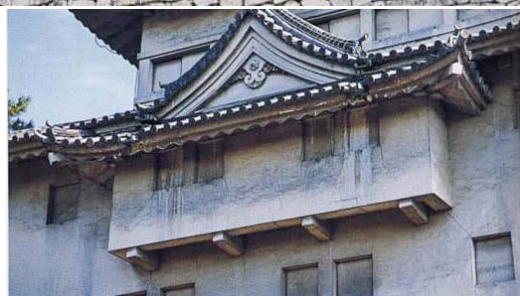
南隅櫓

松本城も袴腰型

(2) 戸袋型・・・伊予松山城の場合



3) 出窓型・・・名古屋城西



いずれも外壁からはみ出しています。またその設置位置も、石落としの下部を石垣天端に合わせたもの、壁面中央部までとしたもの、一階ではなく二階に設

けられたものなど様々です。下見板張りや漆喰塗籠など建物全体に合わせた仕上げが一般的です。

また、特殊な石落しもあります。

**松本城石落し 銃眼になる石落し・・・11ヶ所（乾小天守・渡櫓・天守）** 広い攻撃範囲を持つ狭間的一种である。横幅は一間が標準である。

石落しの数は、**他城に比べて多い。**

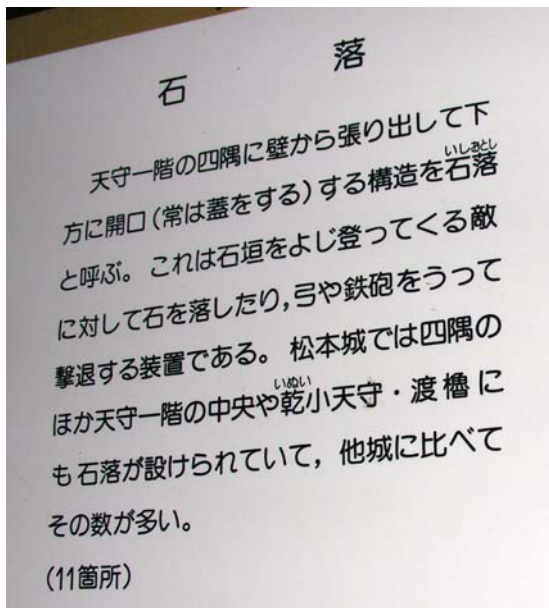
乾小天守 2 渡櫓 1 天守 8

隅に二間幅があるので、中央は一間幅である

天守隅にある二間石落し



中央にある一間の石落し



**横への有効視野を確保**の工夫である



渡櫓の石落しから下を覗くと

中央に2間の石落しの設置（有効視野の確保）

四隅の石落し（実戦では銃眼になる）を設けるだけではどうしても中央部分に死角ができる。長さ**2間の石落しを設けておく**と、それが防げられる。そして、より手元が見え、攻撃しやすくなる利点がある。

